

システムの名称：**HOPシステム****第1章 システムの基本的な考え方**

このシステムは住宅の耐久性の向上、性能の高品質化、建築費の低コスト化等を目標に木造在来工法を改善し、合理化及び規格化を進め新在来工法の確立を行うものである。

(1) 耐久性の向上

阪神大震災、東日本大震災でみられた在来工法の崩壊は、建築の老朽化もそうであったが、構造部分の継手の腐朽等もあげられている。

本システムは、自社開発の接合金物の使用により継手部位の耐久向上を図り、専用機械による継手加工を行うことで、高精度の軸組施工が可能になり、耐久性の向上、品質の均一化が得られる。

又、施工者の経験による品質のばらつきが抑えられ、安定した良質住宅が供給可能となる。

(2) 性能の高品質化

接合金物の使用、部材の均一化により作業精度を高め高耐久、高气密性能の向上を図る。

横架材間等の寸法を規格化、標準化することで、工業化製品の使用を容易にし、高断熱性能等の向上を図る。

(3) 低コスト化・合理化

在来工法における複雑な継手加工を接合金物使用により簡略化し、加工及び現場施工性の向上、工期短縮を図る。

構造部材を標準化する事により材料の無駄をなくすことで低コストにつながる。

(4) リサイクル化

特殊継手金物の使用により接合された木材は、金物をはずすことにより、構造材としての再利用やチップなど別のかたちで再利用もでき、資源を無駄なく使用することを図る。

第2章 システムの概要**2.1 システムの概要**

- (1) 横架材を標準化し、部材寸法の統一を図る。
 - ・横架材の寸法を105×150に統一し、柱、間柱などの長さを標準化する。
 - ・その為に階高、天井高を一定にする。
- (2) 壁パネル（フレーム）を使用し、施工の効率化を図る。
 - ・横架材間距離を統一することで、工場加工による標準化された壁パネルを用い、現場施工の効率化を図る。
- (3) 柱、はり等の軸組を特殊継手金物での接合とする。
 - ・自社開発した特殊継手金物（HOP金物）を採用することで、施工の効率化、技術レベルの統一を図る。
 - ・プレカット加工においても、特殊継手金物に合わせた治具を開発し穴あけ、スリット加工を同時に行っている。
- (4) 先行床張りによる、作業安全性の向上を図る。
 - ・2階床組みに構造用厚合板を用い、建て方と同時に施工することで、高所での作業の安全性を図ると共に現場作業の効率化を図っている。

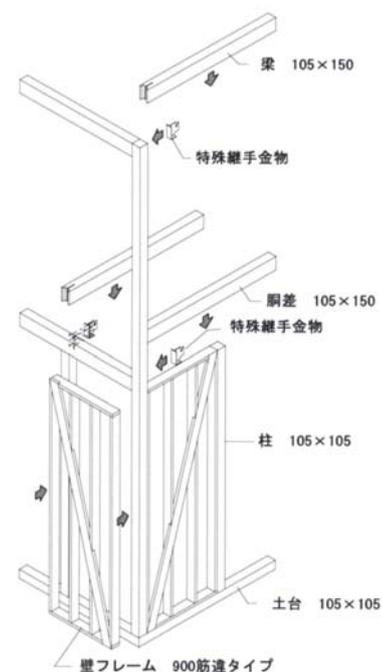


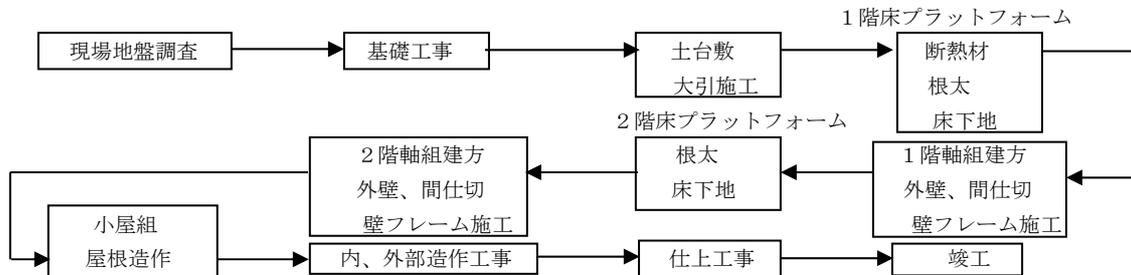
図2-1-1 躯体概念図

2. 2 構法の概要

2. 2. 1 概要

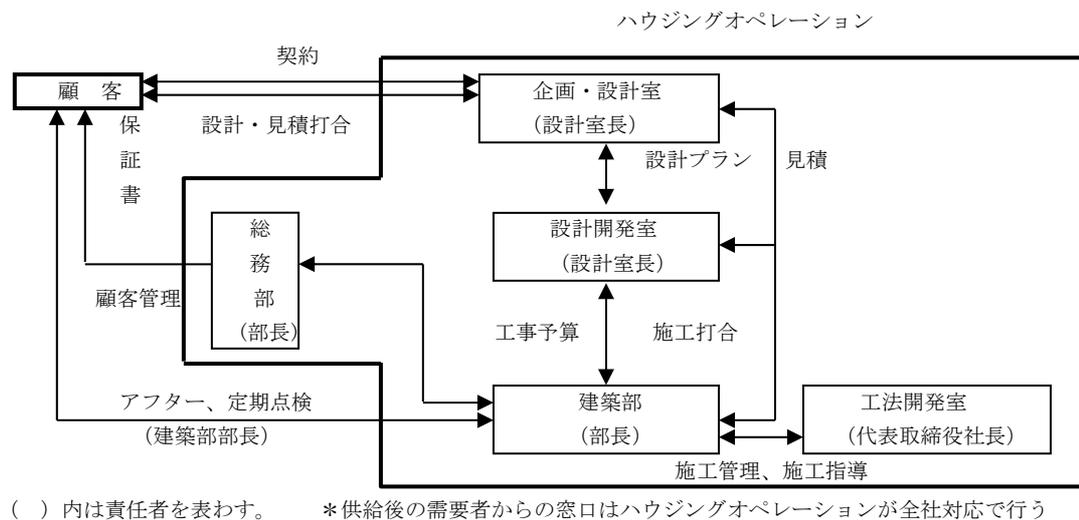
- (1) 階高、天井高を一定にする事で横架材間距離を統一、標準化し製材からの無駄をなくす。
- (2) 胴差、桁のメンバーを標準化 (105*150) し、壁フレーム製作の寸法を統一する。
- (3) 床はり、小屋はりの継手を特殊金物接合とする事で施工の均一化と効率化を図る。
- (4) 壁フレームを工場製作とし、筋かいをフレーム内に納める事で現場作業の省力化を図る。

2. 2. 2 施工計画



第3章 供給体制について

3. 1 システム供給フロー全体図



第4章 維持管理について

4. 1 維持管理補修サービス

- ・引き渡し後の維持管理の時期

半年後、1年後、2年後に無償にて定期点検を行い、瑕疵、メンテナンス工事については無償で行う。

お客様ご要望の補修工事については有償で行う。

引き渡し10年後、定期点検を行い、その後は有償で維持管理補修サービスを行う。

4. 2 保全計画書

- ・保全計画書の構成内容

構造躯体、屋根、外壁、開口部、設備について点検を行い、更新時期や取り換え時期について検討し、引渡後の定期巡回、またお客様からの問い合わせに迅速に対応することにより、長期間にわたり維持管理をサポートする。

4. 3 その他

自社基準の保証書により、短期、長期保証を行う。

株式会社日本住宅保証機構 (JIO) の住宅瑕疵担保責任保険に加入、登録し、住宅瑕疵担保履行法による保証を行う。